

★新自由主義が唯一の方法でないことを示した＝オデット・グラジエ

世界社会フォーラム（WSF）が1月23日から28日までオンラインで開かれました。以下は創始者の一人、オデット・グラジエ氏のスピーチ。

新自由主義が前進の唯一の方法であり、他に選択肢はないという考えは終わりました。「もう一つの世界は可能だ」とのメッセージがみんなの心をつかんだ。

2000年にダボスで開催された世界経済フォーラム（WEF）は、新自由主義の勝利を宣言しました。経済は規制や統制、規則や法規から解放されれば、世界を繁栄させ、すべての社会問題を解決するだろうというのです。

規制は、労働権や人権、環境保護や消費者の権利の保障を維持しようとするものですが、それらは経済発展と進歩の障害だと考えられました。ダボスに出席した独裁者たちがあらゆる榮譽を受けて支持を与えた人たちは、民主主義は、そのルールによって市場の完全な自由を望む人々の行動を妨げると考えています。

メディアがこういうスピーチを伝えて新自由主義を賞賛しているのを見て、私は非常に心配になり、世界社会フォーラム（FSM）を作ろうと思いついたので、世界経済フォーラムへの対抗点を作ってそれに反対し、経済は社会進歩の役にたつものでないことを示す必要があったのです。人権や、環境の保全、民主主義は、文明プロセス、地球上の生命、すべての人の幸福にとっての基本的価値であり、一部の人々だけのためではありません。自由市場は、ルールや制限がなければ、ジャングルの法則を促進することになり、最強のものがますます強くなり、最も弱い人たちがますます弱くなり、または消えてゆきまです。その結果は、不平等の残忍な拡大です。

世界の不平等の指標を調べると、最も裕福な1%の人々に、他の99%と同じ富が集中しています。そこで私はいつも自問しました。どうしてこんなに少数の人が多数の人を支配できるのだろうか。どのようにして私たちはこのような不平等を受け入れることができるのか。その原因の一つは、かなり多くの人々が、他に対案がなく選択肢がないと思い込んでいることです。そして一方では、市民社会がバラバラになって、人々が互いに繋がって共同し、政治的、社会的な力

を獲得して、変化をつくりだし、公共政策に影響を与えることが困難になっています。

世界社会フォーラム（WSF）は社会組織が主導するプロセスで、社会進歩のための目に見える具体的な提案やイニシアチブを行ってもう一つの世界が可能であることを示し、組織と社会指導者の間のつながり、同盟、パートナーシップを促進することを示します。

数人の人々や団体がこのアイデアに賛同して、2001年1月にポルト・アレグレでWSFが開始されました。2004年以来、WSFは世界で名声を得ています。数多くの世界的あるいは地域的、国、地方とテーマ別のフォーラムがすべての大陸に広がっています。20周年記念のWSFは1月23日に始まり、1月30日まで開催されますが、パンデミックのためにバーチャルで行われています。

我々はこれまで敗北と勝利を積み重ねてきました。不平等は依然として巨大であり、環境の荒廃は続いている。一部の重要な国は、民主主義、人権、環境の持続可能性のすべての価値を否定する政府を選出しました。進歩的な政府は重要な社会政策を実施してきたが、市場の論理と権力の誘惑に屈した政府もあります。地域的、世界的レベルでいくつかのネットワークと同盟が形成されています。重要な運動が力をつけ規模を拡大しています。女性差別撤廃、反人種差別主義、先住民や環境保護、人権と多様性の尊重、不平等の削減、参加型民主主義の促進などです。法律や公共政策、法的規範、国際条約の分野で重要な前進が得られました。

新自由主義が前進する唯一の方法であり、他に選択肢はないという考えは終わりました。「もう一つの世界は可能だ」というメッセージが、みんなの心をつかんだのです。WSFは、このアイデアを信じ、20年前に最初のフォーラムを開催することを約束し、次のすべての会議を開催し、参加した何千もの活動家や組織のおかげで現実のものになることができました。そして彼らはより良い世界のために戦い続けています。これらの組織や人々に、私は敬意を表します。

オデッド・グラジエ=世界社会フォーラム（WSF）創始者の一人。現在エトス研究所名誉会長、持続可能な都市研究所およびオックスファム・ブラジル評議員。

(ALAI 1月28日から) (翻訳 田中 靖宏)